

JVCKENWOOD

JVCKENWOOD  
統合レポート  
2019

# 企業ビジョン

## 感動と安心を世界の人々へ

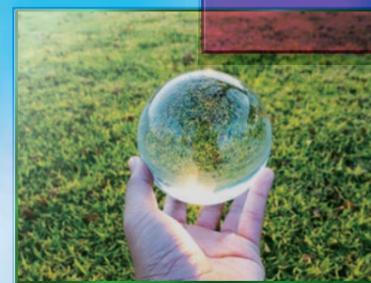
Creating excitement and peace of mind for the people of the world

### Contents

CEOコミットメント	3	<b>【第3章】 成長のための基盤強化</b>	39
創造と革新の歩み	5	技術立脚型企業への発展「CTOメッセージ」	41
財務ハイライト	7	「モノ・コトづくり」を究めるために	45
事業の概要	9	次世代の「ヒトづくり」のために	47
ブランド戦略	11	<b>【第4章】 サステナビリティ経営</b>	49
グローバル事業展開	13	サステナビリティ推進戦略	51
<b>【第1章】 成長戦略</b>	15	マテリアリティと実績	55
価値創造プロセス（ビジネスモデル）	17	環境	57
中長期戦略「CEOインタビュー」	19	社会	59
•ROE10%の達成に向けて	24	ガバナンス	
財務戦略「CFOメッセージ」	25	•コーポレート・ガバナンス	61
<b>【第2章】 事業活動報告</b>	27	•社外取締役メッセージ	64
オートモーティブ分野	29	•取締役・監査役および執行役員	67
パブリックサービス分野	31	•コンプライアンス推進／リスクと機会	69
メディアサービス分野	35	<b>【第5章】</b>	
DXビジネス	37	財務・非財務情報	71
		会社概要／株式関連情報	73

### 経営方針

顧客価値創造企業への変革  
技術立脚型企業としての進化  
事業を通じた持続型社会への貢献





3つの経営方針を推進力として、  
世界中のステークホルダーの皆さまに  
「感動と安心」を実現する価値を  
提供し続けてまいります。

皆さまには平素より格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

JVCケンウッドグループは、企業ビジョンとして「感動と安心を世界の人々へ」を掲げています。この企業ビジョンを実現していくためには、当社グループが持つ製品やサービスごとに市場動向の変化に柔軟かつ迅速性を持って対応すると同時に、どんな時代の変化に対しても揺らぐことのない価値観を持ち、中長期的な観点で物事を判断するという、バランスのとれた経営が必要です。

こうした考えを実践していくため、当社グループは2015年に中長期経営計画「2020年ビジョン」を策定し、「顧客価値創造企業への変革」を旗印とした改革を開始しました。また、2018年には中間総括を行い、「技術立脚型企業としての進化」「事業を通じた持続型社会への貢献」を加え、これら3つを新たな経営方針に据えて、企業ビジョンの実現と一層の企業価値向上を目指しています。

「顧客価値創造企業」とは、メーカーとしてのモノづくりにとどまらず、お客さまのニーズを起点に事業の構想を練り、社内外の英知を結集したソリューションを創造する、すなわち課題解決型の企業となることを意味しています。また、「技術立脚型企業」とは、顧客価値を創造するために、当社グループのコアテクノロジーである「映像」「音響」「無線」を軸とした知財戦略と技術戦略を両輪として活用し、AIやIoT、5Gなど各事業にまたがる最先端の要素技術をグループに取り込んでいくという強い意志を表しています。さらに、「事業を通じた持続型社会への貢献」は、顧客ニーズと同時に社会課題にも目を向け、その解決のプロセスの中で生まれる技術・製品・サービスを通じて長期的な成長機会を見出していこうという考え方です。当社グループが有するコアテクノロジーを生かした業務用無線機器やドライブレコーダー、ヘルスケア関連機器などは、企業ビジョンに掲げる「安心」に直接関わるものであり、国際社会が求めるサステナビリティの実現や、国連のSDGsを達成する上でも有力なソリューションになり得ると確信しています。

これら3つの経営方針を推進力として、JVCケンウッドならではの価値を創造していくとともに、その価値を継続的に高めていく意欲と能力、コンプライアンスなどの見識を併せ持った人材を育成することこそが、経営者としての使命です。また、企業ビジョンを共有しながら現場で活躍する従業員、役職員にとって少しでもやりがいのある職場、透明で実効性のあるガバナンスと意思決定ができる組織体制をつくることも重要な責務だと考えています。

JVCケンウッドグループは、さまざまな取り組みを通じて、当社グループが関わる全てのステークホルダーの皆さまと深く信頼関係を築きあげるとともに、将来にわたって成長の喜びを分かち合えるような企業グループ経営を、首尾一貫して目指してまいります。

代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者(CEO)

江口 祥一郎

歴史を超えて。領域を超えて。  
常に新たな価値創造に挑戦してきました。

### JK 1.0 1920～2007年

「旧日本ビクター株式会社」  
「旧株式会社ケンウッド」個社の時代  
技術と文化の創造によるグローバル企業への成長

**日本ビクター株式会社**

1927年 日本ビクター蓄音器株式会社設立

1939年 日本初のテレビジョン受像機完成

1958年 日本初のステレオ盤LPとステレオセット「STL-1S」を発売

1972年 ビクター音楽産業株式会社(現・株式会社JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント)設立

1976年 家庭用VHSビデオカセット第一号機「HR-3300」を発売 

1986年 世界最小・最軽量VHSビデオムービー「GR-C7」を発売

1995年 世界初ポケットサイズデジタルムービー「GR-DV1」を発売 

2003年 ウッドコーン・スピーカー搭載コンパクトコンポーネントシステム「EX-A1」を発売

2007年 家庭用ビデオカメラで世界初、1920フルハイビジョンを実現した、ハイビジョンハードディスクムービー「Everio」 「GZ-HD7」を発売

**株式会社ケンウッド**

1946年 有限会社春日無線電機商会設立

1957年 日本メーカーとして初めてFMチューナー「FM-100」の輸出を開始 

1960年 トリオ株式会社に社名変更

1978年 日本で業務用無線機分野に参入

1980年 米国でカーオーディオ分野に参入  
日本で「KENWOOD」ブランドのカーオーディオを発売

1986年 株式会社ケンウッドに社名変更

1991年 マクラレンF1チームとオフィシャルサプライヤー契約を締結、チーム専用無線システムの開発・供給開始

1992年 業界初の1DINサイズGPSカーナビゲーションシステム「KNV-100」を発売し、カーナビゲーション分野に参入 

2007年 米国無線通信システム事業会社 Zetron, Inc. を子会社化 

### JK 2.0 2007～2016年

経営統合～構造改革  
会社基盤を整備し、  
次世代に向けた成長の土台をつくる

2007年 7月 「日本ビクター株式会社」と「株式会社ケンウッド」が資本業務提携契約を締結

2008年 10月 ビクターとケンウッドが株式移転の方法により共同持株会社「JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社」を設立(東京証券取引所市場第一部に上場)

2009年 12月 ケンウッドとビクターで同一プラットフォームを初めて採用したカーナビゲーション「MDV-313」を発売 

2011年 2月 高画質と高速レスポンスを実現した彩速ナビの初代機「MDV-727DT」「MDV-626DT」を発売 

8月 「JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社」の社名を「株式会社JVCケンウッド」に変更

10月 JVCケンウッドがビクター、ケンウッドおよびK&Kカーエレクトロニクスを吸収合併

2013年 3月 8K解像度表示を実現した世界初量産モデル、業務用D-ILAプロジェクター「DLA-VS4800」を発売 

6月 香港の車載機器事業会社Shinwa International Holdings Limited(現・JVCKENWOOD Hong Kong Holdings Ltd.)を連結子会社化

7月 「東京特殊電線株式会社」から「東特長岡株式会社(現・株式会社JVCケンウッド長岡)」の全株式を会社分割(吸収分割)により承継

2014年 3月 北米向けデジタル無線規格P25に対応した業務用無線システムを手掛ける「EF Johnson Technologies, Inc.」の全株式を取得

9月 NEXEDGE/P25規格 両対応 マルチモードデジタル無線機「NX-5000」シリーズを発売

12月 高精度で鮮明なフルHD映像の記録が可能なドライブレコーダー「KNA-DR300」を発売し、ドライブレコーダー市場に参入 

2015年 4月 欧州の車載用部品事業会社「ASK Industries S.p.A」を連結子会社化

5月 2021年3月期を見据えた中長期経営計画「2020年ビジョン」を策定

2016年 3月 シスメックス株式会社とエクソソームを対象とした診断機器の共同開発を開始

4月 業務用システム事業の拡大を目指して、「株式会社JVCケンウッド・公共産業システム」を設立

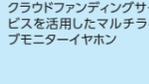
### 「2020年ビジョン」における取り組み方針

- 製品販売からソリューションの提供へ
- 販売会社から運営会社へ
- 自前主義からオープン化へ
- 知的財産を活用した技術立脚型企業への発展
- ブランド価値向上への取り組み
- 事業活動を通じた社会問題解決への取り組み

### JK 3.0 2016～2018年

企業文化を含めこれまでの全てを変え、  
顧客価値創造を実現するべく進化を目指す

2016年 7月 クラウドファンディングサービス「Makuake」を利用した、マルチライブモニターイヤホンの開発支援プロジェクトを開始 

10月 世界最小0.69型4K「D-ILA」デバイスを新開発 

10月 “木”の振動板を採用したウッドドームユニット搭載インナーイヤードホン「WOOD」シリーズを発売

2017年 3月 ヘッドホン再生で、リスニングルームのスピーカー音場と定位を再現できる頭外定位音場処理技術「EXOFIELD(エクソフィールド)」の開発を発表 

3月 旧日本ビクターの創立90周年を記念して、Victorブランドを再定義

3月 国土強靱化貢献団体認証「レジリエンス認証」を取得

8月 三和交通株式会社とタクシー配車システムの開発・導入に向けた業務協働に関する覚書を締結

11月 フルハイビジョンの約1.8倍となる3.7メガ録画を実現したドライブレコーダー「DRV-830」を発売

2018年 1月 DMR<sup>※1</sup>に対応した中継器などの開発・販売を手掛けるイタリアの「Radio Activity S.r.l.」の全株式を取得 

※1 デジタル無線の国際規格「Digital Mobile Radio」の略

1月 2015年に策定した中長期経営計画「2020年ビジョン」の進捗および見直しを発表

3月 「健康経営優良法人2018～ホワイト500～」に認定

2016-2017年度メーカー別販売数量シェア第1位<sup>※2</sup>を獲得したドライブレコーダー 

※2 国内のカー用品量販店、家電量販店、インターネット通販などの販売実績を基に推計した市場規模データ/Gik Japan 調べ

### JK 3.1 2018～2019年

新経営体制のもと  
新たな経営方針で発展を加速

2018年 3月 女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定の最高位を取得

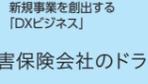
4月 新経営体制発足に伴い、新「経営方針」「行動指針」を制定

4月 新コンセプト“CONNECTED CAM<sup>TM</sup>”の業務用ハイエンドカメラレコーダー第一弾「GY-HC900」を発表 

5月 OR<sup>※3</sup>映像システムソリューションを手掛けるドイツのRein Medical GmbHの全株式を取得 

※3 Operating Roomの略

5月 トラック運送業界を対象とした商用テレマティクス分野への参入に向けて、通信型ドライブレコーダーを開発 

6月 ビクター設立90周年記念商品として、高級オルゴール「RJ-3000MK2」を限定複製 

8月 当社製通信型ドライブレコーダーが損害保険会社のドライブレコーダー付き自動車保険に採用

9月 世界初<sup>※4</sup>、8K映像表示に対応したホームシアター用D-ILAプロジェクター「DLA-V9R」を発表 

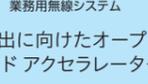
※4 2018年9月13日現在

10月 シスメックス株式会社と微細加工技術を用いた検体検査用バイオデバイスの開発・製造会社「クリエイティブナノシステムズ株式会社」を共同設立

10月 前方と後方の同時録画に対応した前後撮影対応2カメラドライブレコーダー「DRV-MR740」を発売 

10月 LGBTに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」において最高評価の「ゴールド」を受賞

10月 LTEに対応した、全天候型のタフなハンディ型業務用IP無線機をソフトバンクに供給 

12月 ニュージーランドの業務用無線通信システム事業会社「Tait International Ltd.」の株式取得および資本業務提携を締結 

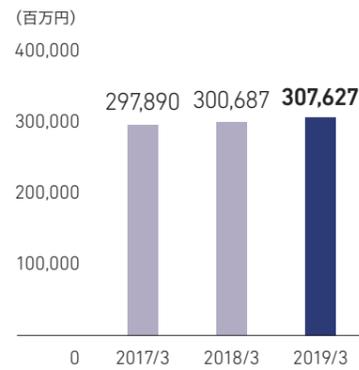
Tait社が手掛ける業務用無線システム

2019年 1月 スタートアップ企業との新規事業の創出に向けたオープンイノベーションプログラム「JVCケンウッド アクセラレーター2019」を実施

4月 東南アジア配車サービス最大手Grab社向けに通信型ドライブレコーダーを活用したドライバー向けセキュリティサービスを商用化

親会社所有者  
 帰属持分比率 **24.7%**  
 (+3.6ポイント)

売上収益



営業利益(損失)



売上収益 **3,076億円**  
 (+2.3%)  
 営業利益 **73億円**  
 (+4.7%)

2期連続で増収増益となりました。

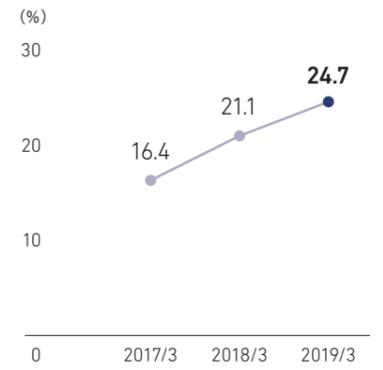
有利子負債



ネットデット

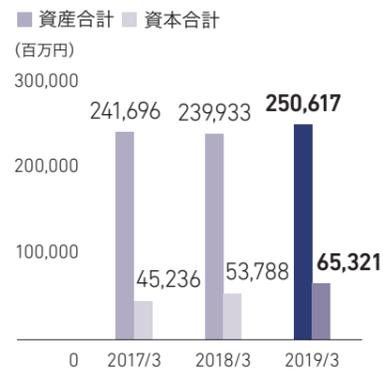


親会社所有者帰属持分比率

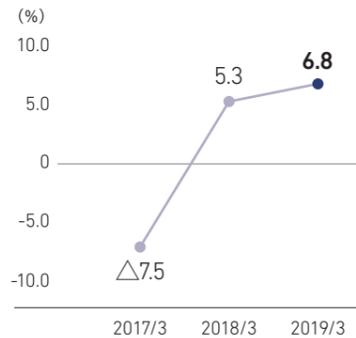


長期借入金が増加したことから、前期比で有利子負債は増加しましたが、ネットデットは微減となりました。

資産合計・資本合計



親会社所有者帰属持分当期利益率 (ROE)



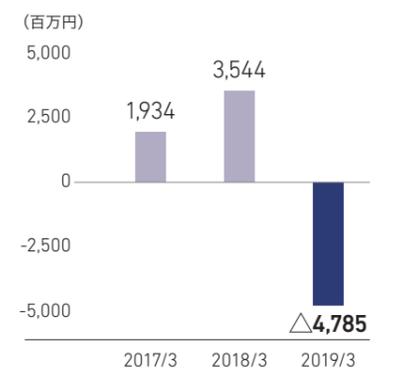
ROE **6.8%**  
 (+1.5ポイント)

資産・資本とも増加、  
 ROEも2期連続で向上しました。

キャッシュ・フロー

	2017/3	2018/3	2019/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,624	18,379	<b>20,983</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,690	△14,835	△ <b>25,768</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,052	△7,043	<b>8,479</b>

フリーキャッシュ・フロー

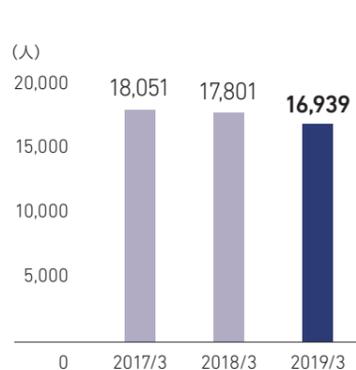


営業活動によるキャッシュ・フローは収入が増加しましたが、投資活動によるキャッシュ・フローは支出が増加したことから、フリーキャッシュ・フローはマイナスに転じました。

従業員1人当たり営業利益



従業員数



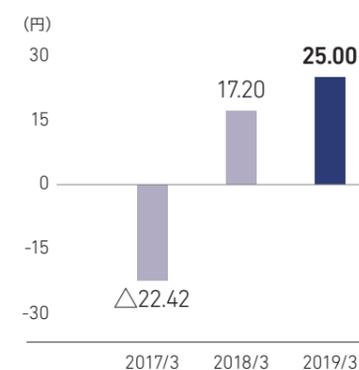
従業員1人  
 当たり営業利益 **43万円**  
 (+10%)

従業員1人当たり営業利益は  
 2期連続で増加しています。

1株当たり親会社所有者帰属持分



基本的1株当たり当期利益(損失) (EPS)



基本的1株当たり  
 当期利益 (EPS) **25.00円**  
 (+45%)

JVCケンウッドグループは、「オートモーティブ」「パブリックサービス」「メディアサービス」の事業分野、およびその枠にとられないソリューション提供を手掛ける「DXビジネス」において、お客さまの課題を解決する「顧客価値創造企業」への変革を目指します。

## オートモーティブ分野

(アフターマーケット事業、OEM事業)



## パブリックサービス分野

(無線システム事業、業務用システム事業、ヘルスケア事業)



## DX<sup>※</sup>ビジネス



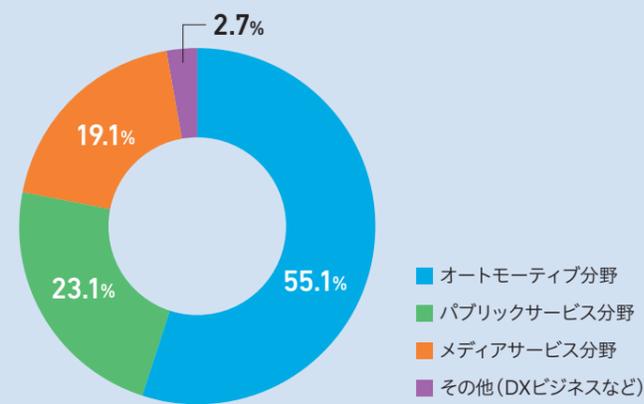
※ Digital Transformationの略

## メディアサービス分野

(メディア事業、エンタテインメント事業)



分野別売上収益構成比 (2019/3期)



## グループの企業価値向上を目指して、各ブランドが担う役割と目指す姿、ビジョンを明確にする「マルチ・ブランド戦略」を推進しています。

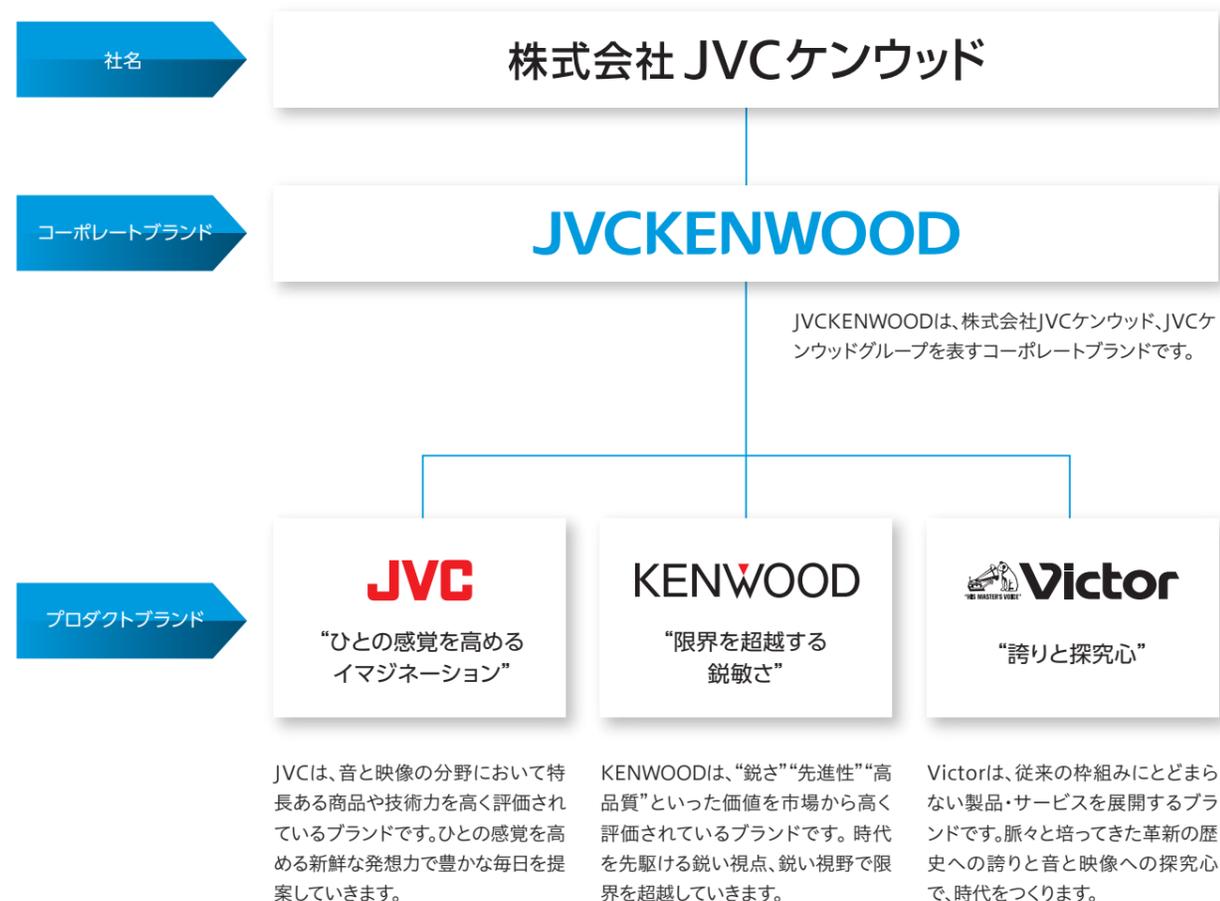
### 基本的な考え方

JVCケンウッドグループは、従来型の「製造販売業」から顧客課題を解決する「顧客価値創造企業」への進化を図っています。この顧客価値創造のプロセスの中で、「ブランド」も、お客さまや株主・投資家の皆さま、お取引先、求職者など多様なステークホルダーの皆さまからの“期待”と“満足度”“信頼感”を高める重要な経営資源の一つとなります。

こうした考えに基づき、JVCケンウッドグループは、コーポレートブランド「JVCKENWOOD」の傘下に複数のプロダクトブランドを有し、各ブランドが担う役割と価値を明確にする「マルチ・ブランド戦略」を推進しています。これらブランドごとに、ステークホルダーの皆さまと約束した価値を、顧客体験を通じて繰り返しお伝えすることで、各ブランドの、ひいてはグループ全体の企業価値向上を目指しています。

### ブランド体系

コーポレートブランドの傘下にある3つのブランドは、それぞれのビジョンである“ひとの感覚を高めるイマジネーション”“限界を超越する鋭敏さ”“誇りと探究心”を、お客さまの体験価値として具体的にお伝えするよう努めています。



### ブランディング活動

事業の要である製品やサービスに加え、各ブランドの世界観を訴求するために、アンバサダーの起用やスポンサーシップ活動に取り組んでいます。プロダクトブランドを中心に、その強みを生かしていくことで、グループ全体の企業価値最大化を実現していきます。

## JVC

### アンバサダーの起用

ブランドビジョン“ひとの感覚を高めるイマジネーション”のもと、スポーツ分野で活躍するアスリートをアンバサダーとして起用し、ブランド価値向上に取り組んでいます。



マリオ・モウラ選手

安藤 梢選手

## KENWOOD

### モータースポーツへのスポンサーシップ活動

ワールドワイドで展開されるトップクラスの各種モータースポーツへのスポンサーシップ活動を推進しています。極限の環境で繰り広げられるレースの現場で磨き上げた事業とブランドを通じて、ブランドビジョン“限界を超越する鋭敏さ”を実現しています。

### MotoGP™ オフィシャル・サプライヤー

JVCケンウッドグループの“DMR”規格対応のデジタル無線システムは世界最高峰の二輪レース“MotoGP™”の運営通信手段として採用されています。毎グランプリ開催時には約200～300人の運営スタッフに欠かせないコミュニケーションツールとして使用され、数々の実戦を通じて信頼性の高いブランドとして認められています。



### SUPER GT専用 車載カメラ開発

JVCケンウッドグループは、2014年より国内最高峰のGTカーレースである“SUPER GT”シリーズのGT500クラス全車を含む合計23台のレースカーにTV放映用公式オンボードカメラを供給しています。2019年には過酷な環境下での耐久性/堅牢性を確保しつつ、さらなる小型/軽量化とひずみを低減した明瞭な映像撮影を実現する新型カメラの供給を開始しました。



## Victor

### “こだわり”から創造する商品とサービス

Victorブランドは、“誇りと探究心”を持ち“時代をつくる”ブランドとして展開しています。音の領域で“原音探究”思想による“こだわり”の音づくりから驚きのあふれる商品、サービス、ソリューションを提案しています。



WOOD CONEプレミアムモデル  
コンポーネントシステム“EX-HR10000”

世界5極の開発・生産・営業ネットワークを通じて  
地域に根ざした製品・サービスをお届けしています。

●:オートモーティブ分野 / ■:パブリックサービス分野 / ★:メディアサービス分野 / ◆:DXビジネス

中国

運営会社(販売会社)

- ・JVCKENWOOD (China) Investment Co., Ltd.
- ・JVCKENWOOD Hong Kong Ltd.

生産会社

- ・Shanghai Kenwood Electronics Co., Ltd.
- :オートモーティブ関連機器

主要関係会社

- ・JVCKENWOOD Hong Kong Holdings Limited
- :オートモーティブ関連機器の製造販売および電子機器受託生産サービス

EMEA

EMEA (Europe, Middle East and Africa)

運営会社(販売会社)

- ・JVCKENWOOD Europe B.V. (Located in Holland)
- ・JVCKENWOOD U.K. Limited
- ・JVCKENWOOD Italia S.p.A.
- ・JVCKENWOOD Deutschland GmbH
- ・JVCKENWOOD RUS Limited Liability Company
- ・JVCKENWOOD Gulf Fze

主要関係会社

- ・ASK Industries S.p.A.
- :オートモーティブ関連機器の開発・製造・販売
- ・Radio Activity S.r.l.
- :業務用無線システムの開発・販売
- ・Rein Medical GmbH
- :手術室映像ソリューションの開発・販売・施工

China

Asia Pacific

Japan

アジア・オセアニア

運営会社(販売会社)

- ・JVCKENWOOD Singapore Pte. Ltd.
- ・JVCKENWOOD Malaysia Sdn. Bhd.
- ・JVCKENWOOD (Thailand) Co., Ltd.
- ・PT. JVCKENWOOD Indonesia
- ・JVCKENWOOD Australia Pty. Ltd.

生産会社

- ・JVCKENWOOD Electronics Malaysia Sdn. Bhd.
- :通信関連機器
- ・JVCKENWOOD Electronics (Thailand) Co., Ltd.
- ★:メディア関連機器、業務用機器
- ・JVCKENWOOD Optical Electronics (Thailand) Co., Ltd.
- ◆★:オートモーティブ関連機器
- ・PT. JVC Electronics Indonesia
- :オートモーティブ関連機器

主要関係会社

- ・JVCKENWOOD Technologies Singapore Pte. Ltd.
- :オートモーティブ関連機器・通信関連機器の設計・評価

日本

生産拠点/生産会社

- ・本社・横浜事業所
- :光学部品
- ・久里浜事業所
- ★:プロジェクター、ビデオカメラ、AVアクセサリ、ホームオーディオなどの企画・研究開発
- ・横須賀事業所
- ★:CD、DVD(パッケージソフト)
- ・(株)JVCKENWOOD山形
- :通信関連機器、業務用機器
- ・(株)JVCKENWOOD長野
- :オートモーティブ関連機器
- ・(株)JVCKENWOOD長岡
- :医療機器、医用画像表示モニター、車載基板

主要関係会社

- ・(株)JVCKENWOOD・ビクターエンタテインメント
- ★:音楽・映像ソフトの企画・制作・販売、ライブ事業、ゲーム事業、スタジオ事業など
- ・(株)JVCKENWOOD・クリエイティブメディア
- ★:記録済み光ディスクの開発・製造・販売および医療用機械器具の製造・販売
- ・(株)JVCKENWOOD・公共産業システム
- :映像・音響・通信関連機器およびシステムソリューションの開発・製造・販売・施工・保守
- ・(株)JVCKENWOOD・ビデオテック
- ★:映像・音響の制作・編集・ローカライズ・販売、スタジオ運営、イベント制作・運営
- ・(株)JVCKENWOOD・サービス
- ★:音響・映像機器等のアフターサービス
- ・(株)JVCKENWOOD・エンジニアリング
- ★:ソフトウェアおよびハードウェアの開発設計
- ・(株)JVCKENWOOD・デザイン
- ★:デザインの企画・制作
- ・(株)JVCKENWOOD・パートナーズ
- 福利厚生・総務・人事・経理業務などの受託、物品販売、旅行業、建築工事の施工および請負

Americas

米州

運営会社(販売会社)

- ・JVCKENWOOD USA Corporation
- ・JVCKENWOOD Canada Inc.
- ・JVCKENWOOD Latin America, S.A.

主要関係会社

- ・Zetron, Inc.
- :通信関連システム・機器の開発・製造・販売
- ・EF Johnson Technologies, Inc.
- :業務用無線システムの開発・製造・販売